

町並みかわら版

73号(2016年10月10日)

特定非営利活動法人
全国町並み保存連盟

The Japanese Association
for MACHI-NAMI
Conservation and Regeneration

これまでの有松 これからの有松

本年7月25日、我が有松(ありまつ)の町は文化庁より国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。「有松まちづくりの会」が発足したのは1973年(昭和48)。翌1974年(昭和49)に有松の竹田邸で「町並み保存連盟」を結成し、1978年(昭和53)4月22日に記念すべき第1回「全国町並みゼミ」を他の地に先駆けて開催しました。この日この町の長い努力がやっと報われたわけです。法に守られ、今やっ江戸時代の町並みが将来失われてしまう心配がなくなったわけです。42年前、私の生家である竹田家の書院広間にいっぱい集まった人々の熱い思いから始まった町並み保存運動の精神は、戦後の開発の嵐の中、親から子へ孫へと有松の町に住む人々の心に受け継がれてまいりました。この運動を始めた勇気ある町衆たちと志を同じくする仲間の揺るがない志は真に正しいものだったと称賛されなくてはなりません。本年10月1日・2日に開催される天満社の秋祭りは今までになく華やかで喜びに満ちたものになることでしょう。

子供の頃、石けりをしながら学校に通った往還道、青く濁った藍染川、暗闇に灯るお祭りの提灯やお囃子の音色、有松に育った者にとって大切な懐かしい原風景です。



東海道・有松の町並み(提供:中村椒子)

古い町並みに守られてきた町の生活の一つ一つが私たちの「誇るべきふるさと」なのです。活気ある人々の暮らしがあつてこそ歴史的建造物の町並みが美しく輝くのだと思います。古いというだけでは美しくない。何百年の間この不自由な古い建物に誇りと愛情をもって住み、愛でられてきた町。念願の『重伝建』に指定された今、これからの有松をどのようにすれば良いのかを考えてみたいと思います。

まずは、大きな町全体のグランドデザインを外部の識者の意見を聞きながら町の人々自身が選ばなければなりません。今、沢山ある町の委員会を統一し、力のベクトルを一つの方向へ向け実行してゆく。大切なのはゆるぎない決心と実行力。先輩の大きな業績を踏まえてこれからの有松を何処にもない素晴らしい文化の町にしてゆくの志を持った次の世代であるべきです。有松の住人や絞り業者だけでなくこの町を愛し、誇りに思ってくれる人たちに広く門戸を開くことが大切かと思ひます。

有松は、

- 1) 景観—江戸時代の町並み
- 2) 歴史—桶狭間古戦場
- 3) 産業—伝統工芸有松絞(産業)と文化体験型の観光



伝統工芸品にも指定されている有松絞(提供:中村椒子)

の3要素が揃っている町です。旅行者は東海道沿いに立ち並ぶ豪壮な町家建築にまず目を奪われ、次に「絞り」を見てみたいと思うでしょう。絞りの職人さんたちとの会話や染場の見学・ワークショップも欠かせません。勿論お買い物も食事も休憩所や宿も必要です。情報を得るための案内所もトイレも、分かりやすい案内板も……。看板も統一した形や色にしたい。看板は日本の町を汚くしている一番の犯人なのです。必要な情報を得るための案内所は単なる道や観光案内だけでなく、訪れる人々それぞれのニーズに合わせた的確な情報を提供する町のコンシェルジュです。町の地図には、歴史や見どころや絞り体験ができる場所、有松らしい雰囲気のある食事や休憩する場所、町で開催されているイベント情報等を初めて町を訪れた方々にも提供する。もちろんインターネット上で有松の情報がリアルタイムで検索できるように情報の提供が必要です。外国からの訪問者のために外国語サービスも充実しなければなりません。個人の旅行者のために美術館のようなイヤホンガイドも用意したい。スマホを使った案内もできます。又、文化的な観光地をめざす有松には当然「絞り美術館(仮称)」が必要だと思います。絞りの町有松に来たら美しい絞りが見たい、と誰もが思います。有松絞りを地域に根差した優れた文化として自分の目で見て感動し、やがてその中から染色の道を志す若者も現れるのではないのでしょうか。この町の歴史や町並みの資料や古い絞りの資料・新しいアーティストの作品・染織のデータベース・関連図書など「有松に来たら有松と有松絞りのすべてに出会うことができる」ように、又、町の住人にも絞りの情報が自由に得られ共有できるよう情報の公開が必要です。そして次世代のための教育

も、そのためのスペースも必須です。有松が将来「滅びゆく・・・」伝統産業がかつてあった単なる田舎町にならないよう、有松は垣根を超えて今考え実行する時であると思います。観光を考えるなら桶狭間古戦場跡や大高城跡や砦跡をめぐるバスも必要だし名鉄電車の協力もお願いしたい。有松は駆け抜けて10分ほどの小さな町ですが汲めども尽きぬ魅力の溢れる町として10年後100年後も生き続けることができるよう今が頑張り時だと思います。

町に住む人が中心になって生き活きとした町づくりをする決心をしなければなりません。唯単に古い建物を保存するだけでなく有松の魅力を最大限に引き出せるようなストーリーを皆で考え育ててゆこうではありませんか。そして一番のおもてなしは「笑顔」、「ようこそ」の気持を町を訪れる人にも町の人にも声で伝える……。なんの資本も要らない今すぐ実行できる一番効果的な町づくりの方法です。有松が日本中、世界中どこにもない素晴らしい町になりますように。有松を愛し、町並み保存運動を見守り続けてきた私からの提言です。

(中村倭子

／NPO法人コンソーシアム有松鳴海絞理事長)

*「コンソーシアム有松鳴海絞」は、有松・鳴海絞を通して、芸術・文化・観光および環境に関する事業を行い、芸術・文化・観光および環境に係る問題の改善や解決を図り、染織文化の向上と地域の増進に寄与することを目的として、2015年に設立された団体です。

<http://c-an.jp/>

*来年の全国町並みゼミは40回記念大会です。愛知県名古屋市有松で、開催されることが決定しました。足助では見学会を開催する予定です。



今年は重伝建記念式典が開催される(提供:中村倭子)



大内・前沢ゼミ交流会に現代の有松絞がかけられた(提供:若林 稔)